

3906 欧州 18カ国の旅：フュッセン駅は終着駅か始発駅か

霧にけむるプラットフォーム。平凡な何でもない駅なのだが、霧が深くなったように感じた。改札もない。券売機だけはある。花も飾りもない。やがて、人影が見えた。

ここはドイツ・フュッセン。午前8時34分の列車があるようだ。

霧を見て、どう感じるかは、人それぞれ。ロマンにひたるか、プラス思考か否か。

国内外の霧や駅の風景、映画や音楽・シェルブールの雨傘、ソフィアローレン・ひまわり、哀愁も浪漫。夜霧のしのび逢い。逢うことなしに、別れはない。列車が霧の中へ消えて行く・・・霧が物語をつくってくれる。夢追人・久楽には、至福の夢の時間がつづいた。



やがて、地球があたたまったのか、視界が良くなってきた。

次々と光景が現れる。微妙さがなくなってきた。寒さもこたえる。

人も集まってきた。この辺でいいだろう。私も、出発の時間が来たようだ。

ノイシュヴァンシュタイン城へ向けて。

城は、山上にある。霧との出会いがあるかもしれないと期待して・・・

